古代オリエント～東地中海～

◎東地中海世界

地中海東岸のシリア・パレスチナ地方はエジプトとメソポタミアを結ぶ通路として前1500年頃からセム語系の(1)__________ が活躍した。しかし、前1200年頃(2)_______と呼ばれる民族の侵入により、この地方の勢力図が変化し、以後この地域ではセム語系3民族の<u>フェニキア人、アラム人、ヘブライ人</u>が活躍し始めた。

図:東地中海の場所

1.フェニキア人

(3)______________などの都市国家をつくりあげ、地中海貿易を独占した。また(4)________をはじめとする多くの植民都市を建設した。彼らの一番の功績は(5)____________の起源であるフェニキア文字をつくった。

図:フェニキア人が活躍した場所

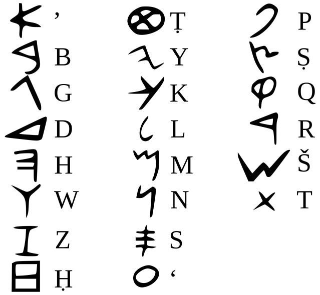

図:フェニキア文字

2.アラム人

前1200年頃から(6)__________を中心に内陸都市を結ぶ中継貿易に活躍した。そのため(7)________が国際商標語として広く使われるようになり、多くの文字の源流となった。

図:アラム人が活躍した場所

3.ヘブライ人

前1500年頃からパレスチナに定住し、一部はエジプトへと移住した。しかし、エジプト新王国の圧政に苦しみ(8)_____に率いられ、パレスチナに脱出した(出エジプト)。その途中モーセはシナイ山で神ヤハウェから(9)_____を受けたと言われている。
前1000年頃、ヘブライ人はパレスチナに(10)___________を建設し、(11)_________とその子(12)_________のもとに栄えた。その後、国は分裂し、北は(13)_____________、南は(14)________に分裂した。

図:ヘブライ人が活躍した場所等

図:モーセ(イメージ図)

図:ヘブライ王国の分裂

その後、北のイスラエル王国は前722年に(15)_________に滅ぼされ、南のユダ王国も前586年に(16)___________に征服され、住民の多くはその都であるバビロンに連れ去られた((17)___________)。

絵画:ジェームズ・ティソによって描かれたバビロン捕囚

◎ヘブライ人の宗教について

ヘブライ人は唯一の神(18)_______を信仰する一神教であった。信仰の内容としては、ユダヤ人(ヘブライ人)が選民として特別の恩恵を与えられているとする(19)________や(20)____________の出現を待望するものであった。ユダヤ人は約50年後、バビロンから解放されて帰国すると、イェルサレムにヤハウェ神殿を再興し、(21)________を確立した。

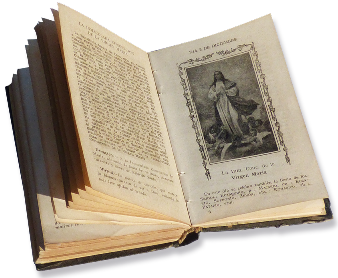
図:ユダヤ教の教典「旧約聖書」(イメージ図)

◎まとめ

	フェニキア人	アラム人	ヘヴライ人
中心都市	シドン・ティルス	ダマスクス	パレスチナ
貿易	海上貿易	中継貿易	−
出来事等	フェニキア文字を発明し、アルファベッドの起源となった。	彼らが使っていたアラム語が商業語として広く使われるようになった。	唯一神ヤハウェを信仰し、ユダヤ教を確立した。

センター試験　改題

古代オリエントの歴史について次のうち正しく述べたものはどれか。

1.紀元前に地中海各地に植民して都市を形成し、海上交易などによって栄えた民族はアラム人である。

2.ユダヤ人は、バビロン捕囚からの帰還後、ソロモン王の下で強力な国家を作った。

3.『旧約聖書』は、ユダヤ教への批判の書である。

4.ユダヤ教の教えでは、ユダヤ人は神に選ばれた民族であり、民族を救済する救世主（メシア）が必ず出現するとしている。

東京大学　改題

ヘブライの民とよばれる人々は、新王国時代のエジプトからモーセに率いられ脱出し、やがてパレスティナに定住の地を見出した。前10世紀頃、ソロモン王の時代には栄華をきわめたが、その後の数百年の間にヘブライ人は独自のユダヤ教を築き上げた。その成立過程について、彼らの王国の衰退との関わりを考慮しながら、簡潔に説明せよ。